

## 富士紀行（88） 演習場内の神社・観音様の御加護を！

(H13/8/14 記)

小泉首相が昨日13日靖国神社参拝をされた。苦渋の決断で、慚愧の念に耐えないとの事であったが、賛否両論有り、歴史的日となった。来年こそは8月15日に参拝して頂きたいものだ。

さて、東富士演習場は不思議な演習場である。その経緯を調べると当然であるが、神社や祠等が場内に幾つかあり、地元の方の崇敬を集めている。現在の畑岡道沿いにも「印野内山のヒノキと桧観音」及び「疫神社」がある。他の地域には石神神社、穂見神社、大日堂（野中神社）等がある。畑岡では総合火力演習が予定されており、神や仏の御加護を祈念するものである。

### ● 印野内山のヒノキと桧観音

小生が富士学校の学生だった頃にはマリン道と称していた現在の畑岡道、滝ヶ原駐屯地から1.7km、農林3号を300m入った所、演習場内桧林の中に 御殿場市指定の天然記念物のヒノキと桧観音がある。案内看板は何時も眺めていたが、実見の機会なかった。先日、意を決して確認した。

御殿場市指定天然記念物

(第10号：H6/2/1 指定、御殿場市印野2651-3番地)

目通り：3.2m、根回り：8.1m、樹高：20.6m、所有者27名

説明板に曰く、『かつて、このあたりは草刈り場で、遠くからでもこのヒノキを見ることが出来たという。ヒノキは巨木が少なく、特にこのヒノキのように低いところから、太く長い枝がのびているのは珍しい。溶岩地帯に育つこのヒノキは宝永の噴火にも耐え、根元に祀られる観音様と共に永く近傍地域の住民から、親しまれてきた。』

樹齢は明記されていなかったが、宝永噴火以前から当地に存在したとすれば優に300年は越えていることになる。（俗に宝永の砂降りと言われる宝永噴火は1707年11月である。細部[富士紀行4号](#)参照）宝永噴火にも耐えてきたヒノキと言うことで、その生命力の強さが信仰の対象になっているのだろう。古来より、日本人は、斯様な神秘的な人智を越えた所に存するものに霊を感じてきた民族である。

ヒノキの根元に鎮座している観音様は、「文化五戊辰年八月吉日」と刻され、台座には小木原、塚、川柳、永塚の地区世話人名が記されており、この四地区の方々の崇敬するものであることが伺われた。



(左から「桧と観音」「観音様（背後が桧）」「疫神社の鳥居」観音様の背後は桧の巨木)

### ● 疫神社

更に桧観音から畑岡方向900<sup>㍎</sup>の位置に疫神社がある。地元の方に伺ったところでは、別名「厄神社」とも称し、嘗て演習場内深くにあったものを現在地に移設したとのことだ。その昔、疫病がはやりその平癒のため神社を建立したと地元の人々の間では信じられているが、多分そうであろう。この神社は、旧印野村の人々の崇敬篤いとのこと、その方も「私も助けられています」と話された。全国的に共通な厄年は、男の25歳、42歳、61歳、女の19歳、33歳、37歳と言われているが、当地方では、男の25歳、42歳、女の19歳、33歳を厄年という（御殿場市史から）特に男42歳、女性33歳は大厄とされ、厳格な厄払いをする風習がある。厄神社の氏子の人々は、大厄除けに42歳の男だけが都合の良い時期を見計らってに持ち寄り厄除け祈願の共同飲食をする風習がある。

毎年、4月8日と12月8日は厄神社の祭典で地元の崇敬者で賑わう。尚、疫も広い意味においては厄に通じるので、疫神社又は厄神社と称するとのことである。

厄年の隊員諸官もお参りしたらどうだろうか。まもなく総合火力演習の為の準備訓練が開始されるが、安全を祈願したらどうだろうか。

（参考御殿場市史）